

# 第1学年2組 生活科学習指導案

授業日 平成27年9月30日(水) 授業B  
 授業者 附属新潟小学校 教諭 三星雄大  
 会場 1年2組教室

## 1 単元名 ぼくのわたしのすてきなかぞく-かぞくニコニコだいさくせん-

## 2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(2)を受けて設定した。

### 内容(2)

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

本単元では、**家族に親しみをもちながら、気付きの質を高める子ども**を目指す。例えば、「お母さんと一緒にお皿洗いをしましたね。今は、大きな鍋やガラスのコップも洗うことができます。お母さんはいつも頑張っています。ありがとうございます。私はこれから自分にできる家のお仕事を自分でやります」などと手紙に記述する姿である。

入学して6ヶ月が経ち、子どもは学校生活に慣れてきた。学校では、給食や掃除などの日常活動や係の仕事を進んで行っている。一方、保護者へのアンケート結果から、家庭に全面的に依存し、家庭生活の中の自分でできることに気付いていない子どもが多い。また、生活が便利になったため、保護者が教育的な意識をもって手伝わせない、子どもが手伝う機会がなくなってしまう。

1年生は、できることが増え、ルールに従ったり、周囲のことを考えたり、友達と力を合わせて何かをしたりする社会性の基礎が育まれる時期である。各家庭と連携し、内容(2)「家庭と生活」の学習をすることにより、自分でできることに取り組み、家族の一員としての役割を果たすことができるようになる。また、学習を通して、家族みんなが支え合って生活していること、自分もその中の一人であることに気付く。このようなことに気付くことで、生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々と適切にかかわることができるようになり、自らよりよい生活を創り出していくことができるという生活上の自立につながっていく。

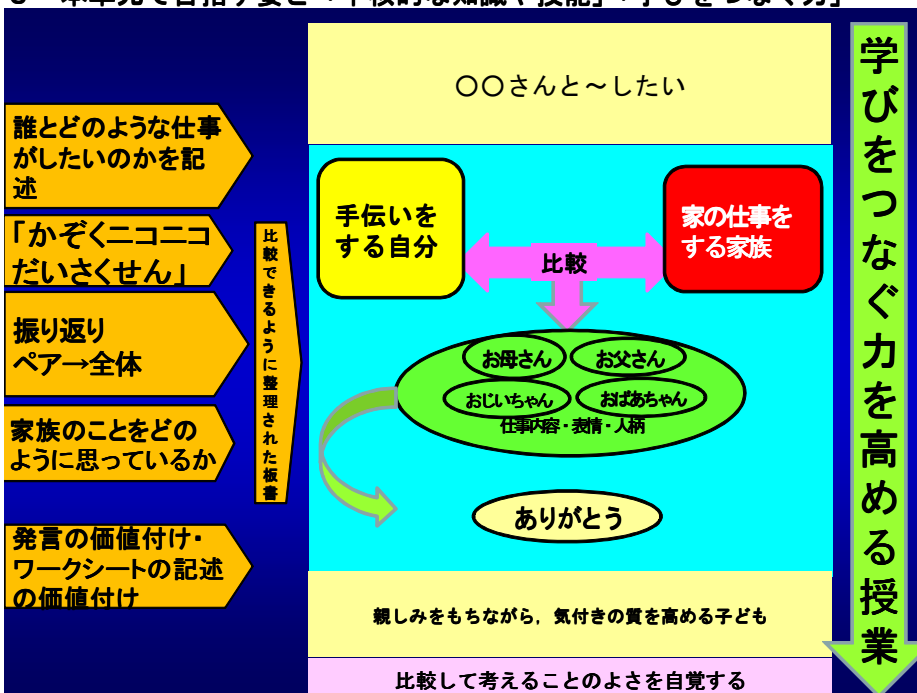
以上のことから、1年生のこの時期の子どもにとって重要な単元である。目指す子どもの姿の例を以下に示す。

例：お母さん、いつも料理を作ってくれてありがとうございます。毎日頑張っていてすごいです。ぼくも自分の学校の支度とか自分のやることをしっかりとしようと思います。

例：お父さんは、家に帰ってからも家族のために洗濯をしてくれるね。仕事で疲れているのにすごだね。僕は、これからゴミ捨てとか自分にできることをしようと思うよ。

例：お母さん、いつもおいしい料理を作ってくれてありがとうございます。教えてもらったから野菜の皮をむくことができるようになったよ。もう自分でできるよ。

## 3 本単元で目指す姿と「中核的な知識や技能」「学びをつなぐ力」



### (1) 目指す姿

家族に親しみをもちながら、気付きの質を高める子ども

「お母さんと一緒にお皿洗いをしましたね。今は、大きな鍋やガラスのコップも洗うことができます。お母さんはいつも頑張っています。ありがとうございます。私はこれから自分にできる家のお仕事を自分でやります」などと手紙に記述する姿

### (2) 「中核的な知識や技能」

家族に対する気付きの質の高まり(家族に支えられていることに気付く、感謝の気持ちを持ち、自分にできることを考えること)

### (3) 「学びをつなぐ力」

比較するすべを用いて、手伝いをする自分と家の仕事をする家族を比べ、違いに気付く力

#### 4 指導計画 全6時間 (180)

単元カード参照

#### 5 指導の構想

子どもは、生活を共にする家族に対して家族に支えられて生活することができていることに気付いたり、感謝の気持ちをもったりするまでには至っていない。また、自分にできることをしようと思いや願いをもつまで至っていない。

夏休みの宿題として家族の手伝いを継続して取り組むようにさせた。単元の導入では、家族の仕事の中で自分がどのようなことを一緒にしたことがあるかを問う。子どもは、今までの経験から「お母さんと一緒に洗濯物をたたんだことがある」などと、発言する。その後、自分がしたことがなくても家族がしている仕事について知っていることはないかを問う。子どもは、手伝ったことはなくても日常生活の中で知っている家族の仕事を発表する。

その後、家族がしている仕事は他にもないか調査させる。子どもは、自分が学校に行った後にしている仕事や寝た後にしている仕事など今までの生活の中では知らなかった仕事があることに気付く。このような子どもに次のように働き掛ける。

##### 働き掛け1

**どのようなことを考えながら仕事をしているかを考えさせ、誰とどのような仕事をしたいのかをワークシートに記述させる。**

家族と一緒に仕事をしたいという思いや願いをもちさせるための働き掛けである。まず、事前に調べてきた**家族**（「対象」※以下：家族）がしている仕事を発表させる。人や仕事内容ごとに分類して黒板にまとめる。次に、どのようなことを考えながら仕事をしているのかを問う。子どもは、「みんなのために仕事をしてきている」などと、発表する。その後、誰とどのような仕事をしたいのかを問い、ワークシートに記述させる。子どもは、「今度はぼくも手伝いたいな」などと、家族と一緒に仕事をしたいという思いや願いをもち、これが問いをもった姿である。

##### 働き掛け2

**家族と一緒に仕事をする活動（以下：「かぞくニコニコだいさくせん」）を複数回設定する。**

仕事内容や表情や人柄など詳細にとらえさせ、自分と家族とを比較しやすくするための働き掛けである。家族と一緒に仕事をさせる。すると子どもは、見ているだけでは気付かない仕事の難しさや大変さに気付いたり、日々自分のために働いてくれていることを実感をもって気づき、心が惹かれたりしていく。

活動後、「かぞくニコニコだいさくせん」をして「したこと・思ったこと・分かったこと・聞いたこと」を先生に紹介してほしいと伝える。そして、『かぞくニコニコだいさくせん日記』の形式で気づきを蓄積させる。子どもは、「お母さんさんと一緒に料理をした。お母さんは、こんなに難しいことをしていたのかと思った」などと記述する。このとき、比較するすべを用いて、手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べて、違いに気付く子どももいる。このように、手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べている記述が見られたら、ワークシートに線を引き、「比べて考えたのですね」などと、コメントを添えて価値付ける。

##### 働き掛け3

**「かぞくニコニコだいさくせん」の振り返りの活動を複数回設定する。**

「学びをつなぐ力」を発揮させるための働き掛けである。『かぞくニコニコだいさくせん』をして、したこと・分かったこと・思ったこと・聞いたことを友達と紹介し合ひましょう」と投げ掛ける。子どもは、『かぞくニコニコだいさくせん日記』に記述した内容を発表する。このとき、聞いている子どもには、質問するポイント（きっかけ・くろう・こつ・よろこび・ねがいなど）を教え、友達を賞賛する言葉（がんばったね・すごいねなど）を投げ掛けるように指示する。

その後、全体での発表場面を設定する。まず、「かぞくニコニコだいさくせん日記」の記述の中で、お手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べている子どもを見取っておき、意図的に指名する。そして、「今、〇〇さんが自分と家族との違いを発表してくれました。皆さんも、「かぞくニコニコだいさくせん」をしてみて、自分と家族の違いについて考えていることがある人はいいますか」と投げ掛ける。発表した内容を自分と身近な人とを対比して板書していく。子どもは、「ぼくは包丁を使うとゆっくりしか切れないけど、おかあさんはトントン速く切ることができる」などと、発表する。これは、比較するすべを用いて、手伝いをする自分と家の仕事をする家族を比べ、違いに気付く姿である。ここで、比べて考えたことのよさを価値付ける。また、同じように考えている子どもに手を挙げさせて同様に価値付ける。なお、働き掛け2と3はサイクルで複数回行う。

##### 働き掛け4

**家族をどのように思っているかを問う。**

「中核的な知識や技能」を獲得させるための働き掛けである。子どもは、「かぞくニコニコだいさくせん」を通して、家族の「大変さ」「頑張り」などを実感している。しかし、多くの子どもは無自覚である。

気付いたことを発表させる中で、自分と家族の違いに気付いた段階で、家族をどのように思っているかを問う。子どもは、家族の仕事を見てきた経験や「かぞくニコニコだいさくせん」の中での

家族とのかかわりから、自分が家族に支えられていることに気付き、感謝の気持ちを持ち、自分でできることを考える。

**「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け**

- ・働き掛け2において、「かぞくニコニコだいさくせん日記」の記述から、「学びをつなぐ力」を発揮している部分に線を引き、価値付ける。
- ・働き掛け3において、違いに気付いた子どもに、どうしてそのように思ったのかを問う。
- ・発言した友達と同じ気持ちの人がいたら挙手をさせ、比べて考えたよさを価値付ける。
- ・手紙の記述から、「学びをつなぐ力」を発揮している部分に線を引き、価値付ける。

「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛けである。

働き掛け2において、「かぞくニコニコだいさくせん日記」の記述から、「学びをつなぐ力」を発揮している部分に線を引き、価値付ける。例えば、「料理で餃子を作ってみました。具を皮で包むときにやぶけてしまいました。お母さんは、こんなに難しいことをしていたのか」などと、記述している部分に線を引き、「比べて考えたんだね」とコメントを添えて価値付ける。

働き掛け3において、「どうしてそのように思ったのか」を問う。子どもは、「一緒に仕事をしてみて気付いた」などと、手伝いをする自分と家の仕事をする家族の違いに気付いた理由を述べる。このとき、発言した友達と同じ気持ちの人がいたら挙手をさせる。そして、比べて考えたよさを価値付ける。

また、単元終末に、家族から手紙を渡し、読ませる。その後、家族への手紙を書かせる。この手紙の記述の中で、手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べて考えている記述に線を引き、価値付ける。子どもは、家族に対する気付きの質の高まりや手紙の言葉などから、**身近な人に親しみをもちながら、気付きの質を高める子ども**（Cn）となる。

**6 本時の構想（本時6／6時間）**

**(1) ねらい**

比較するすべを用いて、手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べ、気付きの質を高めることができる

**(2) 主張（展開）3Q（45分）**

**このような子どもに（C0）**

- ・お母さんは、毎日料理をしている。
- ・お父さんは、家に帰ると洗濯物を干したり、たたんだりしている。
- ・食器洗いは、お母さんがしたり、お父さんがしたりしている。
- ※ 家族に支えられていることに気付いたり、感謝の気持ちをもったりするまでには至っていない。また、自分でできることをしようと思いや願いをもつことまで至っていない子どもに次のように働き掛ける。

**このように働き掛けると【働き掛け1】**

- **どのようなことを考えながら仕事をしているかを考えさせ、誰とどのような仕事をしたいかワークシートに記述させる。**
  - ・指示「宿題で家族の仕事調べの活動をしてきましたね。家の人が行っている仕事を発表してください」
  - ・発問「家の人はどのようなことを考えながら仕事をしているのでしょうか」
  - ・説明「これまでも家の仕事を手伝っている人がいるそうですね。学校で皆さんの様子を見てみると、自分の仕事ではないのにお便りを配ってくれたり、給食当番の手伝いをしてくれたりしている人がたくさんいますね。先生は、みんなに手伝ってもらうと嬉しくて顔がニコニコになります。皆さんの中で、お手伝いをしたいと考えている人がいました。そして、全員が家族がニコニコしていると自分も家族全員も嬉しくなると考えています。1学期は、大野さんや長谷川先生と『まねっこ活動』をしましたね。これからは、家族をニコニコさせるために家で家族のお仕事を『まねっこ活動』してみませんか。題して、「かぞくニコニコだいさくせん」です」
  - ・指示「誰と仕事を一緒にしたいですか。理由も書きましょう。ワークシートに書きましょう」

**このようになり（C1）**

- 誰とどのようなことをしたいのか思いや願いをもつ。
  - ・僕が学校に行った後にお母さんが、全部の部屋を掃除していることが分かりました。
  - ・私が寝た後に、朝ご飯の準備をお母さんがしているとっていました。
  - ・料理はしたことがないけど、野菜を洗うことならできそうです。
  - ・僕は、おばあちゃんと一緒に仕事がしたいです。おばあちゃんは、毎日洗濯物をしてくれていてそれを手伝いたいからです。
  - ・私は、お母さんと一緒に仕事がしたいです。お母さんは、毎日いろいろなお仕事をしてくれているので忙しいからです。
- ※ \_\_\_\_\_のように、誰と一緒に仕事をしたいのかを記述している子どもを通過と判断する。



※本時は、「かぞくニコニコだいさくせん」3回目の期間が終了した段階から始める。よって、本時における既有事項は、働き掛け2の3サイクル目までの活動及び『かぞくニコニコだいさくせん日記』の記述とする。

このように働き掛けると【働き掛け3-①】

- 「かぞくニコニコだいさくせん」を通して、友達に紹介したいことを発表させる。
  - ・説明「皆さん、「かぞくニコニコだいさくせん」で新しく友達に教えたいことは何ですか」
  - ・説明「グループになって、発表し合ひましょう」
- ※ 質問のポイント（きっかけ・くろう・こつ・よるこび・ねがい）を教えることや友達を賞賛する言葉（がんばったね・すごいねなど）を投げ掛けるように指示することは、1サイクル目に行っている。そのため、本時は詳しく説明しない。  
 〈机間指導における教師の支援〉
  - ・発問「〇〇さんは～でしたが、他の人も同じですか」
  - ・発問「どこからそのように思ったのですか」
  - ・発問「皆さんの中にも〇〇さんと同じように考えている人はいますか」

このようになり (C3-①)

- 「かぞくニコニコだいさくせん」を通して、友達に紹介したいことを発表する。
  - ・お母さんと一緒に洗濯物をたたみました。
  - ・初めて料理をしてみました。カレーライスは色々なことをしてからできるのだということが分かりました。
  - ・おばあちゃんと一緒に洗濯物をたたみました。家族全員分はととても多くて大変でした。
- ※ C3-①は、友達に紹介したいことを発表できていれば通過と判断する。

このように働き掛けると【働き掛け3-②】

- 「かぞくニコニコだいさくせん」をして、お手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べて考えさせる。
  - ・発問「皆さんがした中に、写真とは違うお仕事はありますか」
  - ・発問「今、〇〇さんが自分と家族との違いを発表してくれました。皆さんも、「かぞくニコニコだいさくせん」をしてみて、自分と家族の違いについて考えていることがある人はいますか」
- ※ C2-②の記述を見取っておき、意図的に指名して話し合いを始める。
  - ・補助発問「皆さんの中にも〇〇さんと同じように考えている人はいますか」
  - ・補助発問「〇〇さんは～でしたが、△△さんも同じですか」
  - ・補助発問「どこからそのように思ったのですか」
- ※ 一人一人かかわっている人が異なる。そのため、教師が意図的に問い返す。

このようになり (C3-②)

- 「かぞくニコニコだいさくせん」をして、お手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べて考える。
  - ・ぼくは包丁を使うとゆっくりしか切れないけど、おかあさんはトントン速く切ることができる。
- ※ のように、自分と家族とを比べる発言がなされたら全体に問い返す。
  - ・ぼくが洗濯物を1枚たたむ間に、お母さんは、何枚もたたむことができる。  
 「つなぐ力」  
のように、比較するすべを用いて、手伝いをする自分と家の仕事をする家族を比べ、違いに気付く力
- ※ C3-②は、のようにお手伝いをする自分と家の仕事をする家族とを比べる発言をした子ども他にも、『かぞくニコニコだいさくせんにつき』に記述してあることを発表したり、友達の発表を聞いて発表したりした子どもを通過とする。また、複数回のサイクルを行う中で、一度でも発表していれば通過とする。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 家族をどのように思っているかを問う。
  - ・発問「皆さんは、家族をどのように思っていますか」
  - ・補助発問「どこからそう思ったのですか」
  - ・補助発問「これからどうしていきたいですか」

このようになり (C4)

- 自分が家族に支えられていることに気付き、感謝の気持ちを持ち、自分にできることを考える。
  - ・私は、お母さんにありがたうと思っています。どうしてかというと、いつも家族のために仕事をしてくれているからです。これからは、自分にできることをしていきたいです。
- ※ のように、発言した子ども（教師の問い返しも含めて）を「中核的な知識や技能」を獲得した子どもとする。

### 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け

- 働き掛け2-②において、「かぞくニコニコだいさくせん日記」の記述から、「学びをつなぐ力」を発揮している部分に線を引き、価値付ける。
- ※ ワークシートの記述を読んで、「比べて考えたんだね」などと価値付ける。
- 働き掛け3において、違いに気付いた子どもに、どうしてそのように思ったのかを問う。
  - ・発問「どうしてそのように思ったのですか」
  - ・説明「素晴らしいですね。自分と家族を比べているから分かったのですよ」
- 発言した友達と同じ気持ちの人がいたら挙手をさせ、価値付ける。
  - ・指示「○○さんと同じ気持ちの人はいますか。手を挙げてください」
  - ・説明「今、手を挙げてくれた皆さんも比べて考えていますね。素晴らしいです」
- ※ 1年生が、「学びをつなぐ力」を自覚することは難しい。そのため、挙手でも自覚したと見なす。
- 家族に手紙を書かせる。
  - ・説明「家族のすごいところや頑張っているところがたくさん出てきました。家族が聞いたらきっと喜ぶと思います。皆さんには内緒にしていますが、皆さんの家族から預かっているものがあるのです」
  - ・説明「皆さんは、家族と『まねっこ活動』をしましたね。家族から皆さんへお手紙が届いていますよ」
- ※一人一人に手紙を渡す。
- 例：○○、一緒に料理を作ってくれたり、洗濯物をたたんでくれたりしたね。最初は、うまくいかなかったことも上手になってお母さんは、とても嬉しかったです。大きくなったね。お母さんは、これからも○○のために頑張りますね。
  - ・指示「手紙をもらって嬉しいと思っている人がたくさんいますね。皆さんも手紙を書いてみませんか。きっと喜ぶと思います。『まねっこ活動』をした人に手紙を書いてみましょう」

### このようになり (Gn)

- 比べて考えたことのよさを自覚する。【働き掛け2-②】
  - ・ぼくは包丁を使うとゆっくりしか切れないけど、おかあさんはトントン速く切ることができる。
- 比べて考えたことのよさを自覚する。【働き掛け3-②】
  - ・一緒にしてみると、思っていたよりも大変でした。だから、すごいと思いました。
- 手を挙げて、友達と同じ気持ちかどうか意思を表現する。【働き掛け3-②】
  - ・手を挙げる。
- 「かぞくニコニコだいさくせん」を通して気付いた家族への感謝や家族の手紙などから、気付きの質を高める。
  - ・お母さんと一緒にお皿洗いをしましたね。今は、大きな鍋やガラスのコップも洗うことができます。お母さんはいつも頑張っています。ありがとう。私はこれから自分にできる家のお仕事を自分でやりたいです。
  - ・お父さん、いつもお仕事お疲れ様。疲れているのに、家のお仕事もしていてすごいね。一緒にお風呂掃除をして、掃除のコツを教えてくれたのが嬉しかったよ。今度は僕一人でもできます。
  - ・おばあちゃん、洗濯物のたたみ方を教えてくれてありがとう。毎日たくさんの洗濯物を片付けてくれていたんだね。すごいです。これからはおばあちゃんと一緒にお仕事をしたいな。
- ※ .....のように、手紙に記述した子どもを「中核的な知識や技能」を獲得した子どもとする。

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な知識や技能」を獲得することができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4や「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛けにおいて、.....のように、家族に対する気付きの質を高めているか（発言・手紙の記述）。
- ② 働き掛け2-②や働き掛け3-②を受けて、比較するすべを用いて、.....のように、自分と家族とを比べて違いに気付いているか（発言）。
- ③ 「学びをつなぐ力」の有用性を自覚させるための働き掛けにより、.....のように、比較して考えたことを自覚しているか（発言、挙手）。  
働き掛け2-②や「学びをつなぐ力」の有用性を自覚させるための働き掛けにより、.....や.....のような記述をしているかを見取り、価値付けたことにより自覚させる（手紙）。